

授業科目名	授業担当者(担当)氏名	区分	単位	年間授業時間	受講学年	開講年次
コンチェルト実習 A・B I II	銅銀 久弥 指揮指導教員 (シラバス参照) 他	必修	1	30時間	1/2	毎年

《授業の概要》

オーケストラとの協演を前提に「コンチェルト独奏者」としての実習および「コンチェルトに関する総合的、実践的な研究」を行う。

《到達目標》

オーケストラとのアンサンブル技術の獲得、また指揮者やコンサートマスターとのコンタクト方法を修得することができるようになる。

《履修方法》

- 「実習の場＝授業」は、大学院生の以下の参加形態によって設定される。
すなわち、(a)第1期の公開授業、(b)コンチェルト選抜オーディション、(c)第2期の演奏会において
①(a)(c)の「独奏者として演奏」する。(各22.5時間)
②(a)(c)の独奏者として演奏しない学生のうち、オーケストラに「tutti 奏者」あるいは「鍵盤楽器奏者」として出演する。(各22.5時間)
③(b)で独奏者のオーケストラ伴奏(ピアノ)を担当する。(15時間)
④上記以外の学生は(a)(c)の「リハーサル等を受講(実習)」する。(各22.5時間)
- それぞれの参加の内容と受講時間(トータルとして30時間以上)によって「1単位」が認定される。
- 独奏者のソロパートの指導は専攻実技担当教員が中心として行い、オーケストラとの実習の場面においては、指揮者を主たる指導者とする。
- コンチェルト実習A」と「コンチェルト実習B」は、専攻する楽器によって科目名の区別がなされる。
◇弦楽器の実習は[A] ◇ピアノの実習は[B]

《授業計画》

- ◆第1期 2023-5/16～5/20 (5/20 公開授業 オーバード・ホール)
指揮/円光寺 雅彦
曲目/ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品19 より 第1楽章
モーツァルト:ヴァイオリン協奏曲 第5番 イ長調 K.219
ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61
シベリウス:ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47

- ◆第2期 コンチェルト選抜オーディション (2023-9/6 210室)

- ◆第2期 2023-10/17～10/21 (10/21 協奏曲のひととき オーバード・ホール)
指揮/十束 尚宏
曲目/コンチェルト選抜オーディションを経て研究科委員会にて決定した曲目

※具体的な授業プログラムおよび日程等、また、受講上の詳細については、その都度掲示等により連絡するので注意のこと。

《履修資格/履修に必要な予備知識や技能》

- [A I II] 弦楽器1・2年次生
- [B I II] ピアノ1・2年次生

《授業の形式》
実習、聴講 等

《成績評価の要点》

- ① 独奏者として出演する学生：演奏発表および授業内での研究成果の発表 60%、受講姿勢 40%
- ② オーケストラ奏者として出演する学生：演奏発表および授業内での研究成果の発表 60%、受講姿勢 40%
- ③ ピアノで独奏者の伴奏を担当する学生：演奏発表および授業内での研究成果の発表 60%、受講姿勢 40%
- ④ 聴講する学生：受講姿勢 100%

成績は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、「合格」又は「不合格」の表記とする。

《課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法》

課題に対しての到達度と成果について、担当教員のコメントを基に研究を進める。

《事前・事後学習、必要時間》

独奏者として出演する学生は、指揮者、オーケストラと共演することを想定したソロパートの練習。

オーケストラに出演する学生は、独奏者とのアンサンブル、指揮者の指揮を想定した練習。

ピアノで独奏者の伴奏を担当する学生は、独奏者とのアンサンブル、オーケストラの演奏を想定した練習。

聴講する学生は、独奏者として演奏することを想定した総合的な学習、練習。

コンチェルト実習後は、記録音源を聴き復習すること。

学生個々が、事前、事後学習に必要十分な時間を設定する。

《教材》

第1期、第2期演奏曲目の総譜およびオーケストラパート譜は事務室にて配付する。

それ以外の楽譜は各自用意すること。

《授業時間以外で、この授業内容等について質問がある場合》

授業時間前後。事前に担当教員へアポイントを取ること。